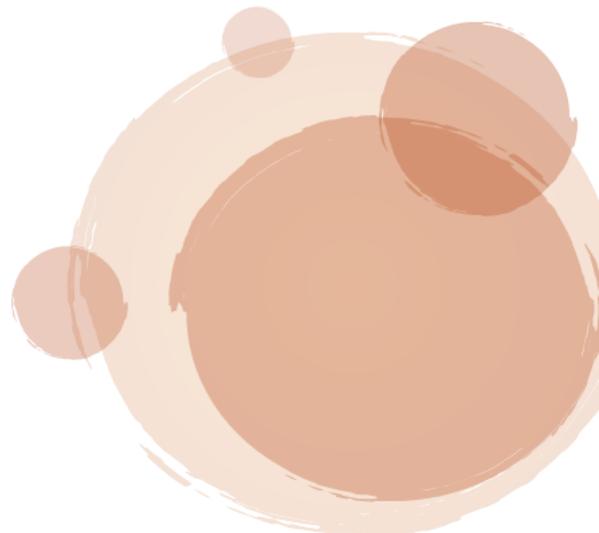




令和元年 12 月 16 日

不妊治療と仕事の両立に関するアンケート 調査結果報告書

三重県子ども・福祉部子育て支援課



(1) 目的

不妊治療と仕事との両立支援にむけて、現在、治療を受けている方々の実態を把握するとともに両立に向けての課題を明確化し支援につなげる。

(2) 調査対象

- ①特定不妊治療費助成申請のために市町窓口に来所した方
- ②三重県内の9指定医療機関にて不妊治療を受けている方

(3) 調査期間

- ①令和元年7月1日(月)～7月31日(水)
- ②令和元年8月1日(木)～8月31日(土)

(4) 調査方法

アンケート用紙に無記名にて記入していただく。

記入いただいたアンケートについては、

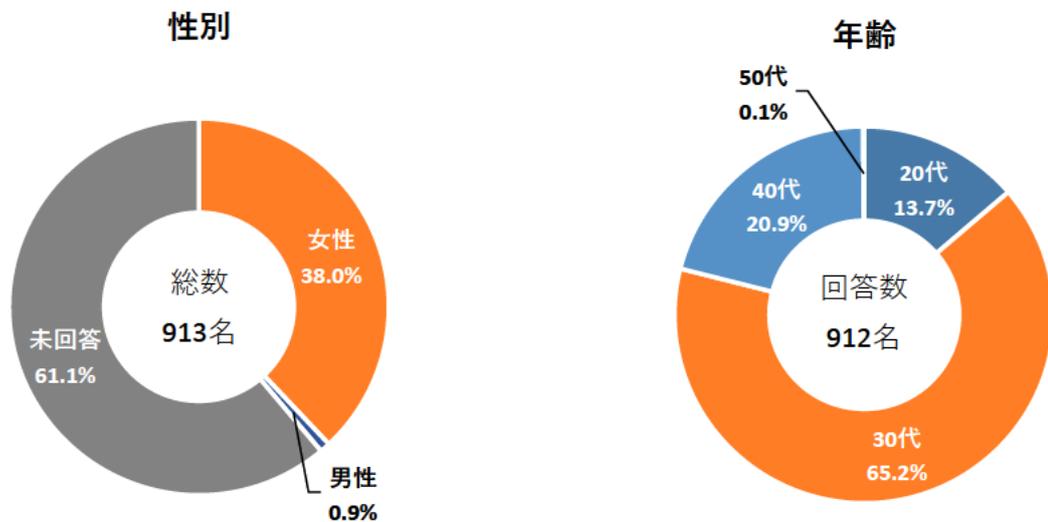
- ①の方は、市町窓口にて申請書とともに回収
- ②の方は、アンケート回収箱を医療機関に設置いただき、調査期間終了後、回収

(5) アンケート回答件数 913件

(6) 協力いただいた医療機関(順不同)

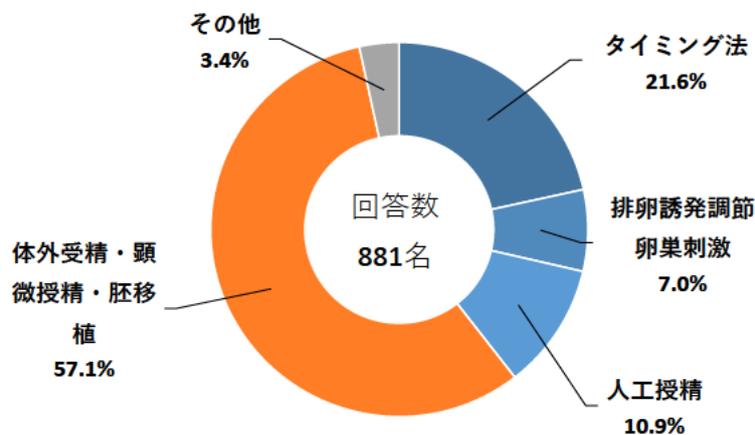
- 医療法人尚徳会 ヨナハ産婦人科小児科病院
- 慈芳産婦人科・内科・リウマチ科
- 医療法人尚豊会 みたき総合病院
- こうのとり WOMEN'S CARE クリニック
- みのうらレディースクリニック
- 三重大学医学部附属病院
- 医療法人 西山産婦人科
- 済生会 松阪総合病院
- 医療法人 森川病院

回答者基本データ



※未回答が多くなったが、これはアンケート項目の配置上、性別欄を見逃しやすかったためと考えられる。

現在、どのような不妊治療をしていますか



回答いただいた方のほとんどが女性だった。

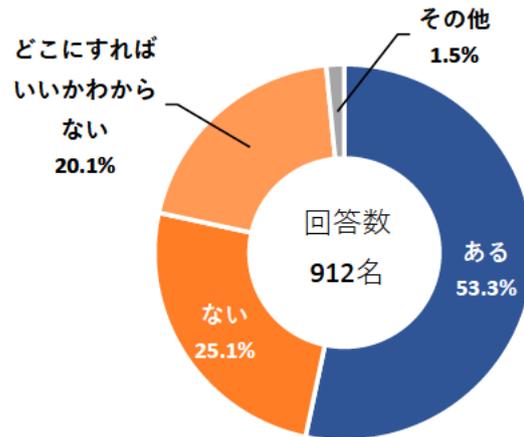
年齢別では30歳代が65.2%と最も多く、次いで40歳代の20.9%となった。不妊治療をしている方の多くは企業を中心として働くことの多い世代であることが分かる。

また、主に特定不妊治療の指定医療機関でアンケートを実施したこともあり、回答者の多くが体外受精や顕微授精のステップに進んでいる方だった。

相談先について

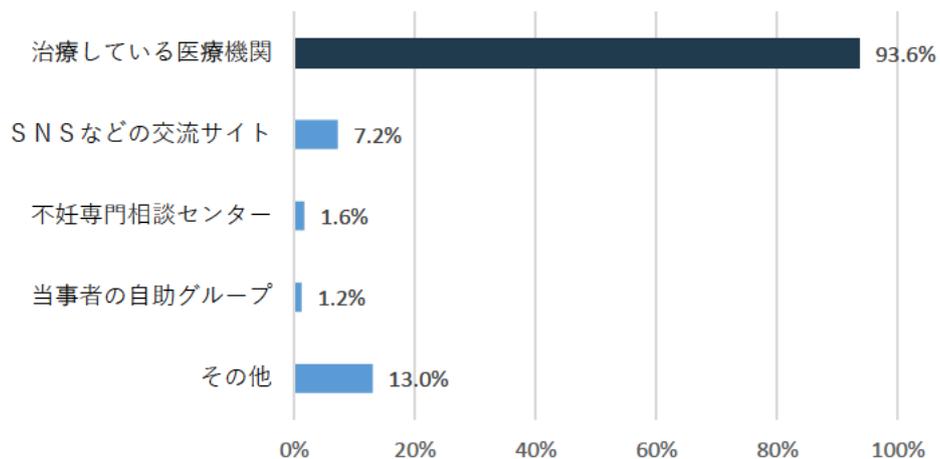
約 45%の方が、「相談できるところがない」または「どこに相談すればいいかわからない」

不妊治療について相談できる場所がありますか



大多数は相談先として医療機関しか利用していない

どこに相談していますか。(複数回答可)



相談先として県の不妊専門相談センターを利用しているのはわずか1.6%という結果となり、まだまだ浸透していない現実が浮き彫りになった。

また、93.6%が相談先として医療機関をあげているが、医療機関には治療についての相談はできるものの、日常の悩みや経済的な不安など、医療機関には相談しにくい事も多く、他の相談先を求める声もあった。不妊専門相談センターや自助グループなど、医療機関以外にも相談しやすい環境の整備が必要である。

相談先について～当事者の声～

相談窓口や自助グループ等、相談先を求める声が多く寄せられた。県の不妊専門相談センターがあることを知らない方も多いとみられるため、さらに周知に努めなければならぬ。

相談窓口がまだまだ少ないので、増やした方がいいと思います。

気軽に相談できる場所が欲しい。

治療は孤独です。相談できる場所、交流できる場所が必要だと思います。

周囲に不妊治療の友人もおらず、悩みを打ち明ける先もありません。

相談窓口がまだまだ使いづらい点も多いと思います。

人に相談できなくてつらい。

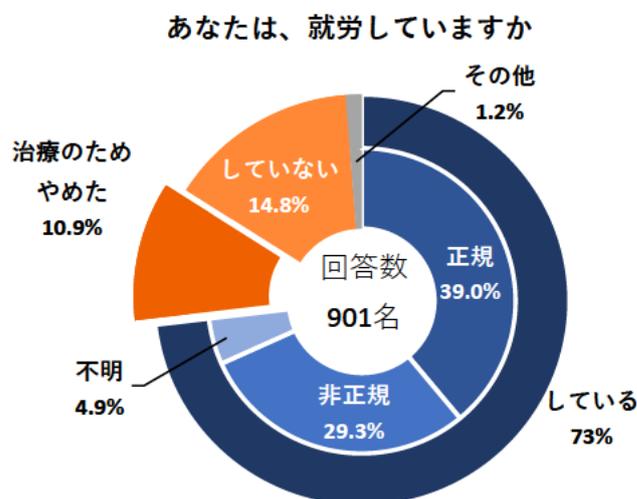
自助グループ、ピアサポートもあればいいかと思う。

治療していることは口外しにくい（偏見やうわさなど）。当たり前を受け入れてもらえるのは難しいと思う。

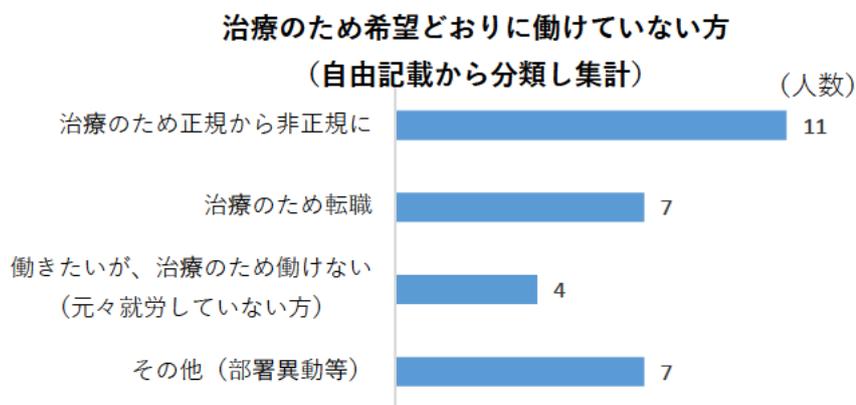
身体的にも精神的にも相談できる場所。どこに相談したらいいか分かりにくい。内容的に相談しにくい。

治療について、専門家に質問できる電話とかがあればありがたいと思います。先生忙しそうでなかなか質問できないときもあるので。

約 11%が不妊治療のために仕事をやめており、さらに多くの方が働き方を変えている



10.9%の方が、「治療に専念するためにやめた」と回答した。また、「治療するために非正規へ」「治療のため今の会社に変えた」という方もおり、不妊治療のために働き方を変えた方も相当数いることが分かった。

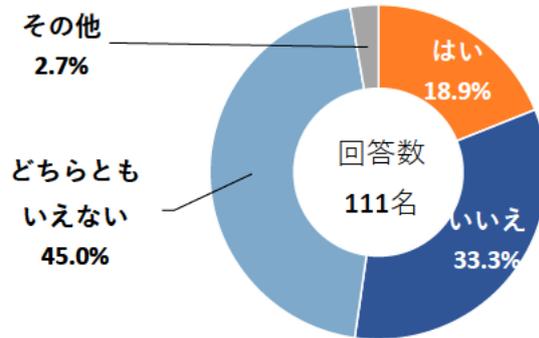


自由記載から、治療のために転職した方や非正規に変わった方等、希望どおりに働けていないと思われる方は、合わせて 29 名であった。退職した方を含めると少なくとも 14%に上るが、これは自由記載のコメントから判明した数であり、ごく一部に過ぎないと考えられる。実際に、NPO 法人 Fine(ファイン) (<https://j-fine.jp>)が実施した 5 千人規模の当事者アンケート¹によると、不妊治療との両立が困難で働き方を変えたことがある方は約 40%いるという結果が出ており、当事者だけでなく、経験豊かな人材を失う企業にとっても深刻な問題であるといえる。

1 NPO 法人 Fine『不妊白書 2018 当事者 5,526 人の声から見えた「仕事と不妊治療の両立」』(2018 年)

治療に専念するために仕事をやめた方のうち、元の職場に治療について理解があると感じていた方は約 19%にとどまる

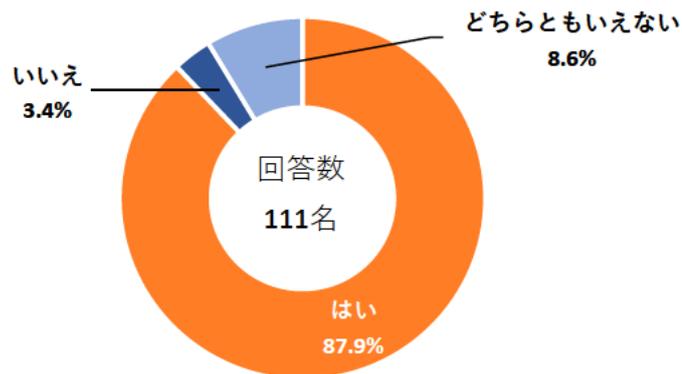
以前勤めていた職場は治療について理解があると感じましたか



職場の「理解があると感じなかった」が「理解があると感じた」を上回った。また、「どちらともいえない」が多くなっているが、職場に不妊治療について話さなかった（話せなかった）方も多いと考えられる。

仕事をやめた方のうち、両立が難しいと感じていた方は実に 88%

あなた自身、仕事と治療との両立は難しいと感じましたか



大多数が両立の難しさを感じていた。両立が難しいと感じる理由は様々だが、多くは、職場の理解がなかったことや、休暇が取りづらかったこと、職場への申し訳なさ等を理由に挙げていた。さらに、不妊治療には高額な治療費がかかるため、仕事をやめたことで経済的な心配が大きくなったという声も多く聞かれた。また企業にとっても、働き盛りの人材を失うことになり、大きな損失となるため、不妊治療を受けやすい環境づくりを進めていくことが必要である。

退職した(働き方を変えた)ことについて～当事者の声～

(1)職場の理解がなかった方

多くの場合、通院のためには職場の理解を得て何度も休暇を取得しなければならないが、理解を得られなかったことで両立できずに退職した方が多かった。中には職場に理解がないことでつらい思いをしたという方もおり、職場や社会全体で不妊治療についての理解を深める取組の必要性が感じられた。

治療のために、理解のある職場に転職。

以前は正規で勤務していましたが、上司の理解がなく退職することになりました、もっと柔軟な勤務ができれば、そのまま続けられたのに、という気持ちもあります。

今、2人目の治療中で1人目も不妊治療にて妊娠、出産したが、1人目のときは職場に理解がなく、正規からパートに変更を余儀なくされた。女性ばかりの職場でも心ない言葉をたくさん浴びてつらかった。

昔、職場の人に話して理解してもらえなかったことがあったので、今別の職場になったけど、話すのが怖い。でも理由を言わず、短時間で働いて、もっと長く働けないのか、と思われているのもつらい。

(2)休暇が取りづらかった方

特に多忙な職場で勤務する方などは、休暇を取りづらいことが原因で退職した方が多かった。また、当番制の仕事であっても、急な通院のために直前に当番を代わってもらうことが難しかった、という意見もあり、職場の配慮や急な通院に対応できる環境が求められている。

医療機関で勤めていたが、なかなか休める状態ではなく、お金も必要だが、タイムリミットも近いと感じ退職した。もっと休める環境を作ってほしい。

仕事との両立が難しく休めない。当番制で職員への迷惑を考えると辞めるしかなく、職場での理解をもらえないまま辞めてしまった。

前職は正社員だったのですが、人員が少なくて残業の多い部署にいたため、休暇の取得や仕事量の多さが原因で退職しました。正社員でも不妊治療の休暇が上限つきでもいいからあればいいのに思いました。

有給がとりづらい職場だった。体力仕事でもあったため、続けたかったがやめました。

治療にはお金がかかるが、正規のままだと突然の休み(通院のため)が難しく、非正規にならざるを得なかった。

(3)職場に申し訳ない気持ちがあった方

職場に理解があり、配慮がなされている場合であっても、通院のため何度も休暇を取ることを申し訳なく感じ、退職された方もいた。不妊治療のための休暇が気兼ねなく取得できるよう、社会全体で意識を変えていくことが必要である。

急に病院へ行くこともあり、職場の理解を得ていても申し訳なくなってしまう。また急には早退や休みも取りづらい。また金銭面も考えると、働きたいが、難しさを感じる。

前の職場は不妊治療に理解がありました。やはり体外受精で急に休まなければならなくなったりが、申し訳なくって、退職しました。仕事との両立はスケジュールが立てにくく難しかったです。

仕事はしたいが、治療中は「この日に病院へ」となることが多いので、不妊の焦りと、職場の方たちへの申し訳なさ、迷惑をかける等で自分もつらいので、出来ずにいます。

(4)その他

異動等の配慮を求めたものの認められず、退職や非常勤への変更を余儀なくされたという声もあった。職場からの配慮があれば働き続けられていた可能性もあり、企業にとっても痛手になったと思われる。また、降格予定の方やキャリアアップを断念した方などもおり、不妊治療がキャリアに影響を及ぼしたケースも多いとみられる。

一方で、仕事をやめ、結果的に子どもを授かったことで退職をポジティブに捉えた意見もあった。

夜勤の回数を減らすことや、夜勤日を固定することを申し出ましたが受け入れてもらえず、非常勤にならざるを得なかったことが辛いです。

思った以上に通院回数が多く、年齢も考え専念するために正社員を退職したが、助成金も使い果たしたので、今後金銭的に不安。

治療に専念するのに、以前勤めていた会社を辞め、パートという条件で面接時に不妊治療に通っていることを説明し、理解を求めたうえで採用されました。

出張が多い仕事だったため、治療との両立ができないと判断し、辞めました。柔軟に勤務ができそうな部署への異動をお願いしましたが叶わず。

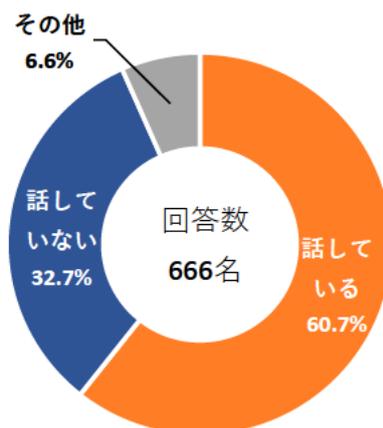
現在、非正規雇用で就労しており、正規雇用へのキャリアアップのチャンスもありましたが、不妊治療のため断念せざるを得ませんでした。本当の意味での男女雇用機会の均等を切に願います。

治療にストレスはよくないと分かっているが、接客業ではストレスが多く、両立するには精神的につらかったので仕事をやめてよかったです。無事、赤ちゃんが産まれました。

管理職のため降格願を提出する予定です。就労していなければ治療費を捻出できませんし両立の難しさを感じます。

現在就労中の方の約61%は不妊治療をしていることを職場の人に話している

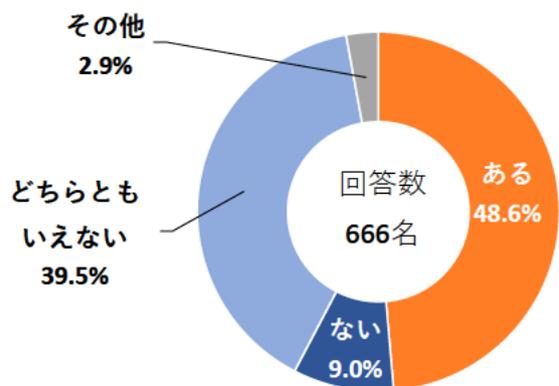
あなたは、治療していることを職場の人に話していますか



職場の人に話している方が話していない方を上回った。ただし、話している方でも、「言える人にだけ」「必要最低限の人にだけ」という声があり、職場には話しづらいとする意見も多かった。

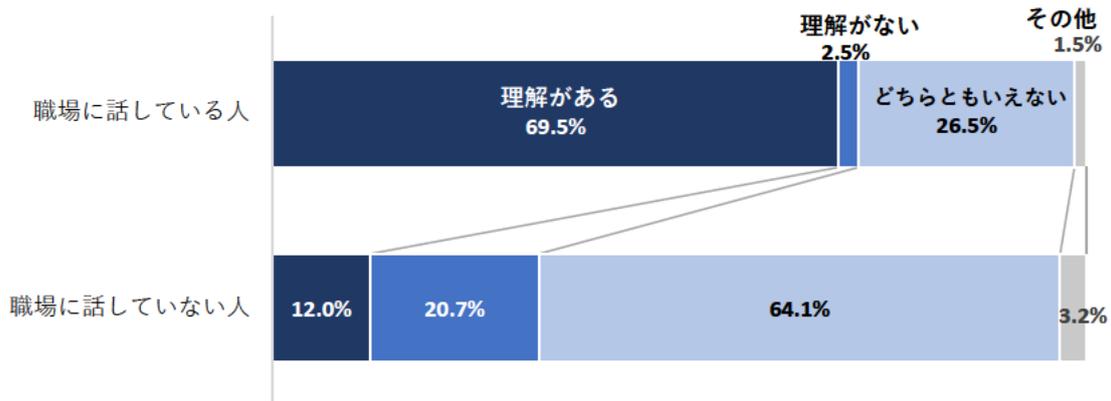
現在の職場に不妊治療への理解があると感じている方は半分以下

あなたの職場は、治療について理解があると感じていますか



職場に「理解がある」と感じている人は48.6%と半分以下であった。また、「理解がない」の9%に比べ、「どちらともいえない」が39.5%と多くなっている。これは、職場の人に話していない人の多くが、理解を示してもらえないか分からないため、このように回答していると考えられる。

あなたの職場は、治療について理解があると感じていますか



不妊治療について「職場の人に話している人」と「話していない人」で比べると、理解があると感じているかどうかには大きな差があった。職場に話しやすいかどうかは、理解があると感じられるかどうかには直結していると考えられる。

ただし、職場に話していても、治療内容などが中々理解してもらえないという声も聞かれた。管理職などが不妊治療に関する理解を深めるとともに、不妊治療をしていることを話しやすい環境を作ることが必要である。

職場の理解について～当事者の声～

(1) 職場の理解を求める意見

多くの方が職場の理解を求める意見を記入していた。また、不妊治療について話せる職場の空気が必要とする意見や、職場に話したことで休暇が取りやすくなったとみられる意見もあり、やはり治療について話しやすい職場の雰囲気づくりが重要である。

周囲の理解、話せる職場の空気が両立には必要と感じます。

職場の理解はなければ専念することができないので、絶対周りの方の協力は不可欠です。

治療中は仕事のやる気がでなかつたりして効率が悪くなることが多いので、そのあたりの理解もしてほしい。

職場に話すまでは、休みを取ることも後ろめたくつらかった。職場の理解はあるべき。でも現状は理解されにくいと感じる。

理解をしてくれる人はいても、上司や勤務等を管理する立場の方がそうとは限らないので、行政側から働きかけてもらえたらいいと思う。

職場で理解してくれている人といない人がいるのが現状、もっと理解してくれる人が増えて、両立しやすい世の中になって欲しいです。

(2) 職場の理解を得るのが難しいとする意見

不妊治療の内容についてはまだまだ一般的に知られておらず、理解を得るのが難しいとする意見も多かった。また、男性には言いづらいという意見もあれば、女性の理解がそれほどないという意見もあった。治療についての説明会の開催を求める意見もあり、不妊治療の内容や必要なサポートについて知ってもらうための取組が必要である。

上司によっては、不妊治療がどんな治療をするのか、全く知識のない人もいて、そういった場合、業務の割り振り等をしてもらえず、両立が難しくなる。管理職への説明会などを設けて治療の大まかな内容を理解してもらえる機会を与えてほしいです。

職場の課内において、男性の理解は思いのほかあるが、子持ちの女性の理解はそれほどない。

不妊治療については、制度が整っていても、治療内容がまだまだ広く知られていないため、休暇を取る際になかなか理解を得られにくいのではと感じます。「なんとなく大変そう」ではなく、具体的にどのように大変なのかということを職場の方々に知っていたら、制度も活用しやすくなるのではと思う。

私は女性の上司だったので話しやすかったが、男性なら言いにくいと思う。

診察のために、急な休みや早退が必要なことを、理解が得られないことが多いので、辛いです。

女性ばかりの職場で話しやすかったが、理解をもらうこと、休みをもらうこと、説明等に時間がかかった。申し訳ない気持ちでつらかった。治療についてもっと知ってほしいと思った。

(3) 職場の理解があっても両立は難しいとする意見

職場に理解してもらえても、やはり急に休暇を取るのは難しいという声もあった。また、肩身が狭くなったという方や、職場に申し訳ない気持ちのある方もおり、制度の整備とともに精神面のサポートも必要である。

治療していることを上司に話した際、最初の方は理解を示していただき、仕事量の調節をしてもらいましたが、”いつまでに妊娠できる”という明確な見通しがない状態が続いたので、だんだんと肩身が狭くなり、辞職しました。働きながらも治療がしやすい社会環境になれば、と心から思いました。

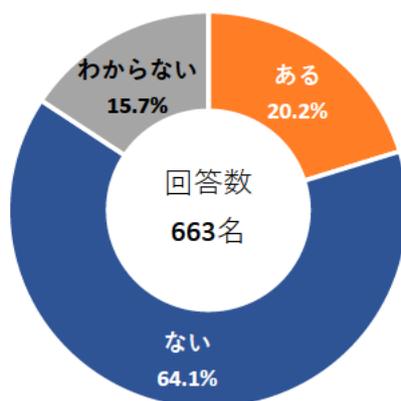
仕事と治療の両立は職場の理解があってもやはり難しい。あらかじめ休む日などがわからないために、急に休むことになったりと、なかなか正社員では両立が難しいと思います。

今の職場は理解してくれているが、その分、早く子どもが欲しい(迷惑をかけたくない)と思い焦ってしまう。気がまぎれるところもあるけれど、少しストレス。

職場のサポート制度について

現在就労している方のうち、職場に不妊治療をサポートする制度があるのは約20%

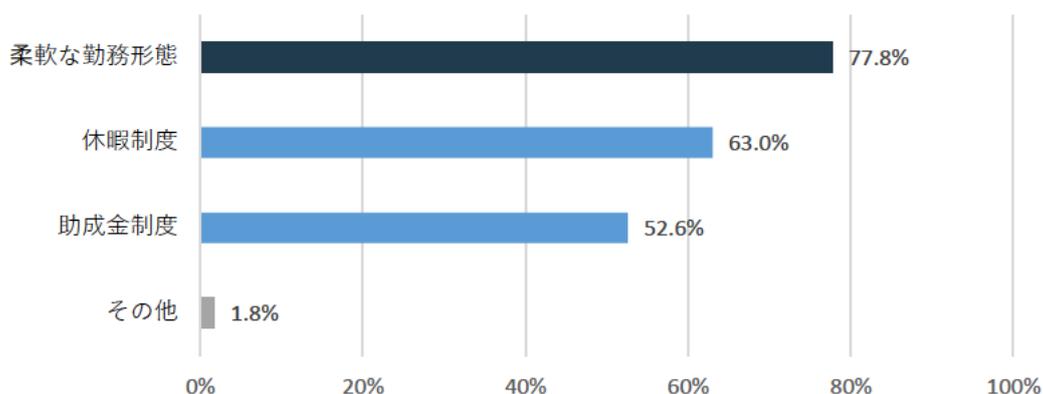
あなたの職場では、不妊治療をサポートする制度はありますか



「ある」と答えた方の職場のサポート制度のうち、最も多いのが「柔軟な勤務形態」で61%、次に多いのが休暇制度で32%、「助成金制度」は最も少なく7%だった。

職場に求めるサポート体制の中で最も意見が多いのが、「柔軟な勤務形態」

職場においてどのようなサポート制度が必要だと思いますか
(複数回答可)



不妊治療中は医療機関に何度も通わなければならないが、通院の度に休暇を取るの
は後ろめたいというコメントも多く、柔軟な勤務形態を求める意見が多かった。また、
休暇制度を求める意見の中からは、1年間など一定期間に渡って休暇や半日休暇が取
得できると通院しやすいという声も複数寄せられた。

サポート制度について～当事者の声～

(1) 柔軟な勤務形態を求める意見

柔軟な勤務形態を求める理由としては、急な通院にも気を遣わずに済むことや、不妊治療に特化した制度があっても利用しづらい、ということが挙げられた。

フレックス制度を導入するなどしてくれたら、急な病院の予約も気をつかわずに行きやすいのではと思う。注射の期間は毎日通院が必要なので、遅刻した分給料も減るし、仕事もたまるが残業しても残業代をもらうのも気まずい。

治療をしている人だけに制度があっても利用しづらい。特別感が出てしまい、同僚と同じ仕事、賃金では会社はよくても居づらく、ストレスを感じることもあった。会社全体で自由な勤務形態なら気兼ねないが、難しい。

フルタイム勤務と受診の両立がかなり難しい。フレックスタイム制がもっと広まればいいと思う。

在宅ワークしやすいといいです。

(2) 休暇制度を求める意見

時間休暇を求める意見や、一定期間の休暇(休業)を求める意見が見られた。また、男性の不妊治療休暇を求める意見もあった。

夫婦ともに治療を受けていくためには、タイミングよく短時間休暇がとれるといい。がその前に職場での管理職の理解が必要。

男性も不妊治療で休める環境を作ってほしい。

休暇制度は必須だと思う。有給では足りない。

不妊治療に専念できるように1年程休めるような制度があると仕事をやめずに治療もできるように感じる。

体調のことなので、急に予定が入ることが多いと思うので、一定期間、完全休暇というより、半日休暇がとりやすいと良いと思う。フォローもその方がしやすいと思う。

年単位の休暇制度があればいいと思う。採卵はその時にしかできないタイミングで、多くて年に12回しかチャンスがない中、仕事を優先せざるを得ず、3回ほど見送ったことがあり、後悔している。

(3) 職場の理解とサポート制度について

治療についての理解は得ていても、休暇等の制度がないために両立が難しいという意見もあれば、制度があっても職場の理解がなければ難しいという意見もあり、両立のためにはサポート制度と職場からの理解の両方が必要であるといえる。

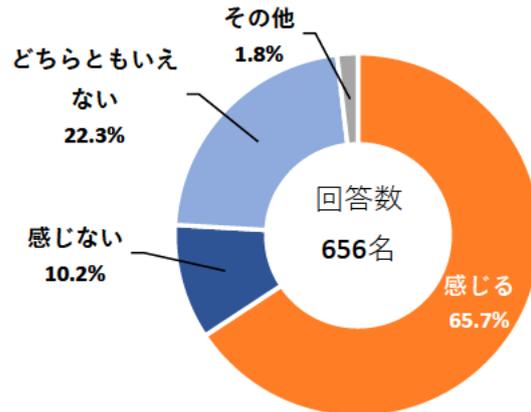
職場の方の理解、協力は得ることができているとは思いますが、不妊治療に対する制度が創設されていないため(例えば休暇制度など)、職場としても、協力したくてもできないということになり、この状態では両立できないと思います。

制度があっても、上司などの理解がないと仕事との両立は難しいと思う。実際私も嫌みを言われたことがある。

不妊治療と仕事の両立の難しさについて

仕事を続けている方でも、約 66%は不妊治療と仕事の両立を難しいと感じている

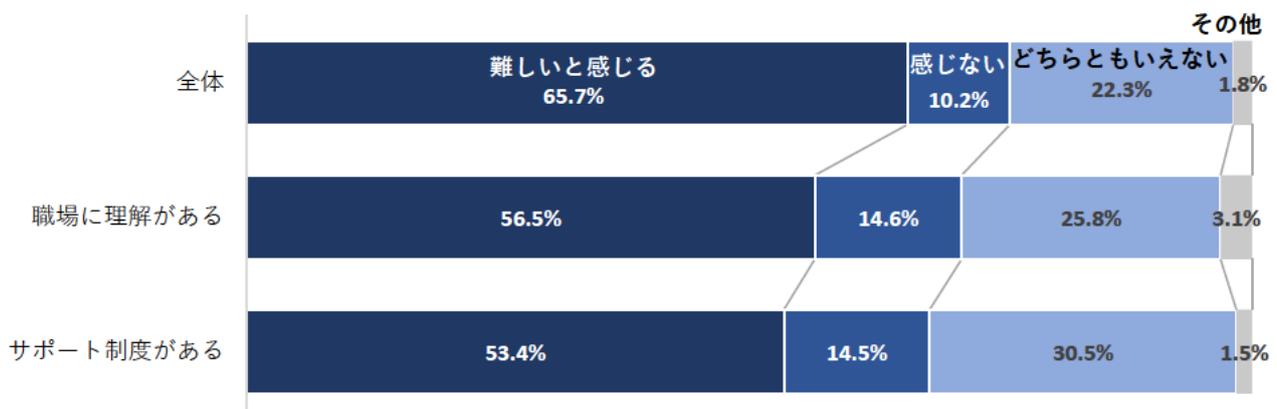
あなた自身、仕事と治療の両立を難しいと感じていますか



仕事を続けている方でも、半数以上は両立が難しいと感じている。また、現時点では難しいと感じていない方からも、「治療のステップが上がれば職場にもっと迷惑をかけるのではないかと思います」「これから進めば難しいと思う」といったコメントがあり、治療が進むにつれてより両立は難しくなっていくことが分かる。

職場の理解やサポート制度があれば、両立を難しいと感じる人の割合は低くなる

あなた自身、仕事と治療との両立を難しいと感じていますか



職場の理解があると感じている人や、会社にサポート制度がある方については、やはり両立を難しいと感じる割合は低くなっており、両立のためには職場環境が大変重要であることが分かる。

現在両立ができている方の声

現在両立できている方からは、職場の理解を得ることができたため両立できているという意見が多かった。ただし、「今の上司だから両立できている」「たまたま自分の会社は理解があった」とあるように、多くの方が他の職場では難しいかもしれないと感じていた。

意見の中にもあるように、治療についてしっかり職場に伝えることが重要であるが、そのためにはまず治療について話しやすい雰囲気を作らなければならない。その上で、不妊治療について理解を深め、必要なサポート制度を整備することが、両立しやすい職場環境づくりには必要である。

今の上司だから両立できているが、他だったら無理だったかもしれない。

私の職場では理解があり、私自身話していたから良かったですが、全ての方がそうではないだろうと思います。

たまたま自分の会社は理解があったが、こんな会社はあまりないのでもっと多くの会社でサポート制度があればと思う。

今の職場は治療に大変理解があり、ありがたいと感じている。ただし、今の上司がたまたま治療の知識があっただけの属人的なことなので、治療の実態(予定の立たない治療、高額の治療費)を社会に知ってもらいたい。

私自身は治療のためにきちんと話をし、対応してもらっていますので、ムリなくできていますが、普通に仕事をしている状態だと治療を続けるのはとても大変だと思います。でもお金もかかることなので、仕事していないと続けられないし、難しいと思いました。

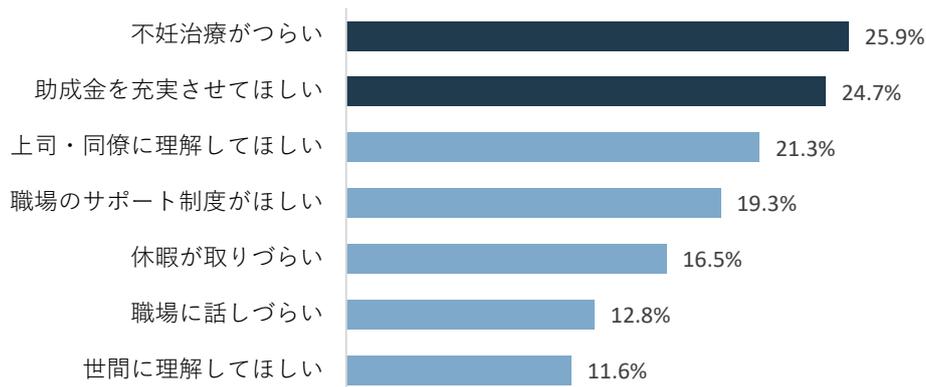
自分自身が職場に正確に伝えることが大切だと思う。はじめは大変そうしか感想がないので、今自分がどういう状況か伝えたら、自分自身も楽になると思う。でもフルタイムは難しいと思う。

自由記載欄のその他の意見

自由記載欄には約40%の方が回答。不妊治療中の方の切実な意見が綴られていた

設問 仕事と治療の両立やその他にもあなた自身が感じていることなどご自由にお書きください

主な意見（自由記載を分類） 回答数：352名



自由記載の意見を分類したところ、不妊治療の大変さを訴える意見が最も多かった。次いで行政に助成金の充実を求める意見や、職場の理解を求める意見が多く見られた。

主な意見

(1) 不妊治療の大変さを訴えるもの

これまでに紹介したものの以外にも、金銭面での不安や、体調面でのつらさ、子どものいる方と比べサポートや理解がされないつらさなど、切実な思いが書き込まれていた。

なかなか職場のスタッフには言いづらいため、勤務調整や業務を調整してもらっても、申し訳ないような気持ちになる。いろいろ気遣ってもらっても、結果につながらないとつらく、仕事に集中できなくなることも多く、両立は難しいのではと思う時がある。

生理周期による急な診察が頻繁にあるため、前もって休暇の申請ができず、会社に迷惑をかけることが、治療中の体の負担と、精神面での負担ともなりました。相談しやすい環境（職場）があれば、理解してくれるだけで心も楽になると思います。

もともと正社員で働いていたが、薬の作用でむくみやだるさ、仕事終わりに1時間かけての通院、その後の家事などの負担も多かった。勤務ももともと予定が決まっておらず、1～2週間もしくは数日前に休みを調節など、交代勤務などと迷惑をかけていると気持ちの上でも負担はあった。

治療費が高額で、治療を断念せざるを得ない時がいつか来るのではないかと不安である、しかし、仕事に就くと治療に専念できなくなるため、不安はなくなる。

育児休暇や妊娠中の人へのサポートは厚いが、不妊治療中への人のサポートや理解は全くなくてつらい。今は正社員として働いているが、今年中には、不妊治療のため退職予定。でも仕事をやめると治療費を払うのが難しく、つらい。

先の見えない治療、着床しない、卵子がとれない、着床しても流産するかも、何をしても他人にあまり言いたくないことで、又、パートナーにも伝わらないイライラ。おちこみもあり、まわりに伝えることが難しい。未だに倫理的に体外受精に否定的な考え方の人もいて、そういった人たちにも理解してもらい難しさを感じている。

急な診察も多く、働いている限り、職場の人に話さざるを得ないこと。細かな予定を話さなければ、職場としても協力できないことは分かるが、流産したことや、これからの治療について細かく話をするのは辛いときもある。

(2) 助成金の充実を求めるもの

助成金に関する意見の中では、所得制限に関するものが最も多かった。また、保険適用を求める意見も 20 件ほど寄せられた。

助成に関しては、職場というより、国が行っていく必要があると思う。仕事をする女性も増え、共働きが多いと思うし、助成が年収で制限があるが、高収入だとしても治療が高額なら助成してほしいと思う。

助成金に所得制限があり、ぎりぎり該当しない場合、なかなか経済的に負担であるため、制限なし、又はあげてもらいたい。いろいろと心配することが少なくなると、体への負担が減ります。

収入が良いわけではないが、共働きだと助成金がもらえず、金銭的にも治療を早めにあきらめないといけなくなる。三重県では少子化がかなり進んでいるのに、産みたい人のサポートをもっとすべきだと思う。

助成金が 43 才までというのも少ないし、40 才未満は 6 回までという助成回数は少ない。40 才でも 6 回助成がおわったら「あきらめてください」と言われているように感じてしまう。回数がもう少し多くてもいいのではないか。体への負担が減ります。

県や市の助成金制度に年齢や回数制限があるのは理解できるが、出来れば無制限にしてほしい。保険適用にできれば言うことない。

助成金の年齢・回数制限をなくしてほしい。(最大 6 回目まで → 最大 6 回以内で治療が終了している人ばかりではない。)

もっと助成金額を上げてほしい。それが保険適用にしてほしい。働いていても体外受精の費用はホント辛い。

その他の意見

(1) 不妊治療について周囲に伝えることについて

不妊治療をしていることについて職場や周囲の人に知られたくない、といった意見も多く、世間全体に対し不妊症への理解を求める声も挙がった。

職場や会社としてのサポートとともに、不妊治療をしていることを知られたくない人もいると思うので、そういう人たちへの配慮も考えていかなければならないと思う。

職場に治療のことを伝えるかどうかは個人差が大きいと思います。伝えたとして、結局、妊娠、出産に至らなかったら・・・と思うと、言わないでおこうかなと思います。

どうしても不妊治療はほかの人に言いにくい点などがあり、休みたくても休みにくい、理解されにくいところがあるので、もう少しいろんな人が理解できるような世の中になってほしいです。

(2) 第2子以降の不妊治療について

仕事との両立だけでなく、子育てとの両立が必要となる第2子以降の不妊治療に対するサポートを求める意見もあった。

1人目も不妊治療で授かり、2人目を治療中。基本的に保育園で預けているが、クリニックが子ども連れOKでも連れていきにくい。1人目治療中の方には心苦しい。

仕事との両立も大変だけど、子育てを育てながら治療をするのも預けて来たり、連れて来たりも大変だし、サポートが必要だと思います。

今はまだタイミング法ですが、それでも通院するために有給を使っているので、有給がなくなり、欠勤になることを懸念している。第1子があり、こちらにも有給が必要なことも多いので。

(3) 医療機関について

地域によって特定不妊治療を受けられる医療機関が少ない（無い）ことから、待ち時間や通院時間の長さを訴える意見もみられた。

三重県内は助成金を受けられる病院が少なく、患者さんが多いため、通院していても負担が大きいです（待ち時間など）。

不妊治療を受けられる病院などがもっと増えてほしい。

通院に往復1時間強、受診を合わせると、最短1時間半～最長3～4時間になることもあり、勤務終了後に帰宅するのは21時になることもあり、疲れます。最終受付時間までに病院につけば診察してもらえるので、助かりますが、病院の方も遅くまで大変そうで申し訳ないです。

治療できる病院そのものが家の近くになく、通院も大変なので仕事をしている人だと、「通院できない」ことで治療をあきらめている人がたくさんいると思います。

不妊治療を受けられている方へ

三重県子ども・福祉部子育て支援課

三重県では、不妊治療を受けやすい環境づくりを進めています。近年、働きながら不妊治療を受ける方は増加傾向にありますが、不妊治療に対する支援制度のある企業は少ない現状があります。安心して治療を受けられる環境や仕事と治療の両立を希望する人が、仕事を続けられるよう、不妊治療を受けられている方のご意見をお聞きし、今後の対策に反映していきたいと考えていますので、アンケート調査へご協力いただきますようお願いいたします。

なお、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。

ご記入いただいたアンケート用紙は、受付に設置の回収箱へご提出ください。

下記項目ごとに、あてはまるものに○をつけて下さい。

*あなたの年齢、性別についてお答えください。

年齢： 1) 20代 2) 30代 3) 40代 性別： 1) 男性 2) 女性

*以下の設問について可能な範囲でお答えください。

設問1. 現在、どのような不妊治療していますか。

- 1) タイミング法 2) 排卵誘発調節卵巣刺激 3) 人工授精
4) 体外受精（顕微授精を含む）・胚移植 5) その他（ ）

設問2. 不妊治療について相談できる場所はありますか。

- 1) ある 2) ない 3) どこにすればいいかわからない。
4) その他（ ）

*設問2で「ある」と回答した方にお聞きします。（複数回答可）

設問3. どこに相談していますか。

- 1) 治療している医療機関等 2) 不妊専門相談センター 3) 当事者自助グループ
4) SNSなどの交流サイト 5) その他（ ）

設問4. あなたは、就労していますか。

- 1) している（ア正規 イ非正規） 2) 治療に専念するためやめた
3) していない（ ） 4) その他（ ）

裏面にもご記入をお願いします。

